

## 学 位 論 文 内 容 の 要 旨

学位申請者	戸次 佳子【論文博士】 【人間発達科学専攻 平成24年度生】 (平成27年9月30日 単位修得退学)	要 旨
論 文 題 目	子どもの協調運動の発達に関する研究 —行動特性およびQOLとの関連—	協調運動発達の障害が、子どものQOLを低下させること、また注意欠如多動症などの発達障害に協調運動障害が合併しやすく、それらの子どものQOLを低下させる一因になっていることが知られている。発達障害と定型発達は、連続したものであり、定型発達児であっても協調運動の発達に遅滞がある場合には、QOLが低下するのではないかという仮説を立て、その検証を行った。
審 査 委 員	(主査) 教授 榊原 洋一 准教授 刑部 育子 教授 浜口 順子 教授 小玉 亮子 教授 篁 倫子	小学2年生と5年生の対象児の親を対象としたQOLと行動特性の質問紙調査と、対象児の直接観察による協調運動の実態調査を行い、それらの間の関連について統計的分析を加えた。その結果、年齢が長じるにつれて、協調運動は発達するが、その様相に性差があることがまず明らかにされた。さらに、協調運動能力とQOLならびに行動様式の間には、有意な相関があり、特にQOLの間には有意の負の相関関係があることが明らかにされた。さらに、協調運動と、QOLの相関関係は、
		学年と性別によって一様ではないことが明らかになった。 教育現場における子どもの協調運動への視点の重要性についても、重要な示唆を与える論文である。